



し、体育の時間などにおいて、眼鏡の装着や、アイパッチで良い方の目を隠して授業を受けることが、危険だと感じられた場合においては、先生の判断にお任せいたします。)

### 3. 理解して下さい！

アイパッチを始めたばかりの子供は、「視力が悪い方の目だけで過ごしている」ということを、ご理解下さい。眼鏡をかければ1.0見えるようになる普通の屈折異常と違い、弱視の子供は、眼鏡をかけても視力が悪いのです。必然的に、アイパッチをしている間は、細かい作業や長時間の読書が苦痛となります。また、片目で過ごすことにより、視野が狭まる上に遠近感がなくなり、バランス感覚が悪くなることも考えられます。場合によっては、黒板が見やすいように席を移したりするなどのご配慮をいただくことも必要となるかも知れません。

弱視治療は、短期間で終了することはほとんどなく、短くても数ヶ月、長ければ数年かけて、継続して行われます。眼鏡は常用が基本となり、アイパッチの時間は、患児により異なりますが、1日数時間から長い子供では終日行われることもあります。よく見える方の目をあえて遮蔽し、見えない方の目だけで、毎日を過ごさなければいけない子供は大変です。しかし、これが唯一とも言える治療法である以上、どうか暖かい目で見守り、サポートして頂けますよう、お願いいたします。

このハンドアウトに関するご質問・お問い合わせは下記までお願いいたします。

弱視治療児支援グループ

あいぱっちくらぶ

URL <http://www.eypatchclub.jp/>

e-mail [webmaster@eyepatchclub.jp](mailto:webmaster@eyepatchclub.jp)